

受章

おめでとうござります

春の叙勲

旭日単光章

山本 昭さん（大島中）



「組合員からの要望を受け、建設を決めた葬祭場。」と話す。当時建設には時期尚早との意見が多かった中、持ち前の誠意と熱意で必要性和将来性を説きオープンにこぎつけました。

平成二年に完成した笠岡湾干拓地の十ヘクタールに及ぶ営農施設用地取得においても、その必要性を強く訴え、理事会の議論のまとめ役としてその後の農業振興に大きく寄与されました。

組合員を第一に考え、「組合員とのつながりを、いかに強くするか、零細組合員をいかに救うか、附託に答えなければならぬ。職員の意識改革を今やっつけていかなければならない。」と語っていました。

昭和四十二年に笠岡市農協の理事、平成七年には組合長に就任し、笠岡市の農業振興に貢献された。また周辺地域の合併を積極的に推進し、平成十五年からは倉敷かさや農協代表理事組合長として、県下農業団体の指導的立場から岡山県農業の発展に尽力された。

印象に残っていることは、

旭日双光章
松枝通泰さん（西大島）



昭和二十九年笠岡信用組合に入組、平成五年に理事長に就任し現在に至るまで、県南西部を中心に地域に根ざした中小企業の育成に尽力されている。

「名誉なことですが、組合員、取引先、職員を代表して受章したと思っている。」と喜びを語る松枝さん。

「金融という業種は無くしては困るが、主役ではない。特定の人のためではなく、地域住民、地元中小企業をサポートしながら、お互いに発展していかなければならない。」

入組してから五十二年間、理念は変わらず、地域の人に必要とされる企業を目指して、山陽線、井原線沿いに支店を拡大しながら地域組合員のた

めに尽力されました。

近年、大型銀行同士の合併が次々となされる中、「合併も一つの選択肢ではあるが、ベストとは限らない。大きくなりすぎると出来なくなることもある。」と地域密着の姿勢を貫いてこられました。

「一番大切なものは人材。金融業は、機械が物を造るわけではなく、人と人とのつながりで仕事をしている。これからも、変化していく顧客ニーズを汲み取って、満足度を高める努力をし、経済のグローバル化に対応していく。」と語っていました。

瑞宝双光章

三宅廣直さん（笠岡）



に就任。「豊かな心」を子どもたちに教え、三十三年間教育の向上に尽力された。

「信頼と愛情に基づいた、あたたかい心の教育」を信念に「教育には家庭、学校、地域社会の連携が必要。子どもの願いを大事にし、体験を通して成長させてあげることが大切。」

物心ついた時から水遊びが好きで、川で毎日泳いでいたという三宅さん。「昔のような自然がなくなり、最近はふれ合う機会も少なくなりました。今の子どもにも出来るだけ多くの自然を知ってもらいたい。その環境をつくってあげなければならぬ。」

教員生活の中で一番の思い出は「母校の小学校に、教師として九年間勤務したこと。自分が教えてもらった教室で一年生から六年生まで全学年の生徒を指導できた。たいへん幸せだった。」

また今回の受章については、「私を生んでくれた両親、家族の協力、そして先輩、同僚に助けていただいたおかげです。」と語っていました。

昭和三十三年小学校教諭として教壇に立ち、倉敷市教育事務所長などを経て、平成五年に大高小（倉敷市）の校長